

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：23804

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K18003

研究課題名(和文)近代日本の芸術観と建築・デザイン デザイン思想のグローバル・ヒストリー

研究課題名(英文)The Concept of Art and Its Relevance to Architecture and Design in Modern Japan:
A Global History of Design Theory

研究代表者

天内 大樹 (AMANAI, Daiki)

静岡文化芸術大学・デザイン学部・准教授

研究者番号：40615035

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではモダン・ムーヴメントの日本への導入過程を多角的に検討した。第一に教育機関に関して、各大学施設や資料を閲覧する機会を得て、文献等で比較した。第二に、グローバルに捉える視座の形成のため、ラトヴィア共和国を調査し、日本と異なる受容過程を捉えた。第三に、国内の展開例として、戦前の分離派建築会に関してシンポジウムを企画・実行し、戦後の静岡県内における展開を調査した。第四に、現代建築に関して外装というテーマが浮上し、布地の型紙へのデザイン史的考察や、関連する著書の翻訳2件が進行中である。第五に、木質国際会議の開催などを踏まえて素材に関する考察を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、従来建築・デザインにおけるモダン・ムーヴメントに言及する際に採用されてこなかった包括的な視点、すなわち東欧諸国との比較、プレモダンの時期とローカルかつステイクホルダーが多かったはずの地方都市中心部という二つの展開例、外装ないし装飾という現代と戦後期を貫くテーマ、現代に再注目される木質などの素材に対する再検討といった視点を獲得することができた。近年建築史学界で注目されるリノベーションという視点からの歴史の再構築にも貢献しうる視点であり、今後蓄積を随時発表するための足がかりを得た。

研究成果の概要(英文)：This research program contains five approaches to observe the introduction of modern movements in architecture and design into Japan. The first is the inspection of educational institutions by visiting their facilities and surveillance of references. The second is a comparative approach between Latvia and Japan. The third is deeper inspections of Japanese processes: Bunriha Kenchiku Kai (Secessionist Architectural Group) in the prewar period, and Bosai Kenchiku Tai (Fireproof Building Belt) in the postwar Shizuoka. The theme of exterior decoration makes the fourth approach, which includes pattern paper for yukata in postwar times and two translation projects ongoing. The fifth relates to materials by organising an international conference and some papers.

研究分野：美学芸術学 / 建築思想史

キーワード：モダン・ムーヴメント 比較建築史 プレモダン 分離派建築会 ローカル 装飾 素材

1. 研究開始当初の背景

申請者は2014-2016年度科学研究費「貫戦期日本の建築論と美学・デザイン論の交流」にて、1930-50年代の美学と建築・デザイン分野との理論的交流を、当時の雑誌と著作から発掘してきた。結果として30年代に関して充実した材料を得られ、まとまり次第公表してきたが、40年代ばかりか50年代初頭までに関して、雑誌・著作群はイデオロギー以上の言説の内容に乏しく、多様性を欠く占領期の言説状況を窺わせることとなった。しかしドイツのバウハウス（1919-33）閉校以降も、建築を含むモダン・デザインの動きが消滅しなかったとすれば、ニュー・バウハウス（1937-）やウルム造形大学（1953-68）など米独の動きに対応して、国内にも動きがあったと考えられる。新建築工芸学院（1932-38）、日本大学専門部芸術科宣伝芸術/商工美術専攻（1939-）、桑沢デザイン研究所（1954-）などが該当する。

従来申請者は、「芸術」概念の建築における挙動の一切片として、日本初の建築運動である分離派建築会（1920-28）を取りあげてきた。自己の表現としての芸術を建築に求めるといふ、世界的な表現主義運動の一翼として、彼らを大局的に位置づけることができる。しかし人格の研鑽を芸術の要件と見なす考え方では、たとえば教育のプロセスは明示しがたい。すなわち、表現主義の影響が残った時代にあつて建築・デザイン分野の教育課程をあえて新造した行為に、少なからず創造の側面をもつ分野を工学化・産業化してしまう陥穽はなかったろうか。戦中から戦後期、軍事から経済へ舞台を移したものの総動員体制を保持した日本で、芸術概念および建築・デザイン分野の位置づけを原点から再検討する上で、教育体制の検討が有効となるゆえんである。

2. 研究の目的

当時注目していた成果としては、ジョン・V・マシュイカ『ビフォーザバウハウス——帝政期ドイツにおける建築と政治』（三元社2015、原著2005）があつた。芸術に独自性を、建築・デザインに規格化をそれぞれ帰した双方の立場から論争を詳細に描いている。一方、ドイツ国内事情がバウハウスの盛衰に濃厚に反映されたとはいえ、芸術思想の影響は国・地域を越境しながら、各地の事情の下で吸収される。そこで現代歴史学で標準化したグローバル・ヒストリーの視座に着目すると、建築・デザイン分野双方で著作は見出される（Ching, Francis D. K. et al. *A Global History of Architecture*, New York: Wiley, 2010; Adamson, Glennetal. *Global Design History*, London and New York: Routledge, 2011）。ただし各地の事情を満遍なく盛り込むだけに留まらない見地に達するには、貿易・移民や統計に着目している経済史研究に比べると思想史において方法論は乏しい。この点を世界の議論から抽出し西洋中心的な美学・デザイン学の記述を「地域化」（=普遍と考えないように）し、モダン・ムーヴメントを描出することを目的として、本研究が始まった。

3. 研究の方法

本研究ではモダン・ムーヴメントの日本への導入過程を多角的に検討した。第一に教育機関に関して、各大学施設や資料を閲覧する機会を得て、文献等で比較した。第二に、グローバルに捉える視座の形成のため、ラトヴィア共和国を調査し、日本と異なる受容過程を捉えた。第三に、国内の展開例として、戦前の分離派建築会に関してシンポジウムを企画・実行し、戦後の静岡県内における展開を調査した。第四に、現代建築に関して外装というテーマが浮上し、布地の型紙へのデザイン史的考察や、関連する著書の翻訳2件が進行中である。第五に、木質国際会議の開催などを踏まえて素材に関する考察を行った。

4. 研究成果

【査読論文】

Tomoko Ohtani, [Daiki Amanai](#) and Kazushi Maruya, The Effect of a Two-Dimensional Optical Illusion Pattern on the Three-Dimensional Interpretation of Objects Using Café Wall “Illusion Blocks”, *Proceedings of the 18th International Conference on Geometry and Graphics*, pp.1682-1693, 2019.

[Daiki Amanai](#), Tomoko Ohtani, and Kazushi Maruya, A Suggestion of the Optical Illusion Blocks for an Architectural Theory: Toward an Architecture in the Near Future, *Proceedings of the 18th International Conference on Geometry and Graphics*, pp.529-540, 2019.

【報告書】

脇坂圭一、天内大樹、土屋一男、稲垣純世編、ふじのくに地域・大学コンソーシアム大学連携講座『静岡建築茶会』、2018.2.

近藤涼香、西尾かなで、藤原薫平、天内大樹編、静岡文化芸術大学2017年度前期公開講座・企画展『ラトヴィア文化ウィークス』記録集、静岡文化芸術大学 デザイン学部 天内研究室、2018.3.

Riichi Miyake, Hiroshi Naito, Erwin Viray, Alvin Tjitrowirjo, Andry Widoyijatnoko, Masahiro Harada, Joseph Michael Espina; Daiki Amanai, Keita Aoshima, Kazuo Tsuchiya ed. *Grow the Forest, Nurture the Wood Culture - Green Strategy, Timber Chain and Woodified Architecture in Southeast Asia and Japan: the Green Initiative Week in Japan-Hamamatsu*, 2020.5.

【査読なし論文，辞書項目など】

天内大樹「日本の美意識を示す教科書図版」（樹下龍児『美意識のありか』書評），『週刊読書人』，n.3256，2018.9.14，p.6.

天内大樹「機械捺染型紙にみる現代的意義——デザイン史的視点」，浜松市博物館特別展図録『浜松の染色の型紙——機械染色の型紙を中心として——』，pp.189-194，2019.

天内大樹「都市の展開と建築——リガ，ラトヴィア」，『静岡文化芸術大学研究紀要』，vol.19，pp.85-92，https://suac.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=1542&file_id=18&file_no=1，2019.3.

Daiki AMANAI，"Contemporary Architecture in Japan"，Haruhiko Fujita and Christine Guth ed., *Encyclopedia of East Asian Design*, London and New York: Bloomsbury, 2020, pp.316-319.

Daiki AMANAI，"Conclusion for Green Initiative Week in Japan-Hamamatsu"，Riichi Miyake, Hiroshi Naito, Erwin Viray, Alvin Tjitrowirjo, Andry Widoyijatnoko, Masahiro Harada, Joseph Michael Espina; Daiki Amanai, Keita Aoshima, Kazuo Tsuchiya ed. *Grow the Forest, Nurture the Wood Culture - Green Strategy, Timber Chain and Woodified Architecture in Southeast Asia and Japan: the Green Initiative Week in Japan-Hamamatsu*, 2020.5, pp.309-312.

【口頭発表】

天内大樹「リガの発展と建築」，シンポジウム「ラトヴィア、生活と文化」，静岡文化芸術大学2017前期公開講座「ラトヴィア文化ウィークス」，静岡文化芸術大学176教室，2017.6.17.

Daiki Amanai and Tomoko Ohtani, *Theoretical Basis for the Optical Illusion Block from the Viewpoint of Architecture*, 11th Asian Forum on Graphic Science, 21 KOMCEE East & West, Komaba Campus, University of Tokyo, Tokyo, Japan, 2017.8.9.

天内大樹「平和記念東京博覧会の「分離派式」」，分離派建築会100年研究会連続シンポジウム第3回「メディアと建築家——博覧会と商業主義のただ中で」，東京大学工学部1号館15号講義室，本郷，東京，2017.11.05.

土屋和男，脇坂圭一，天内大樹，柳沢究「静岡県内の防火建築帯および防災建築街区における建築物に関する研究 その1 意匠と道路の関係について」，日本建築学会東海支部2017年度研究集会，名古屋大学東山キャンパスES総合館035講義室，愛知，2018.2.20.

（関連：土屋和男・脇坂圭一・天内大樹・柳沢究「地方都市中心市街地の持続可能性に向けた防災建築街区等の更新に関する研究 その1 清水、静岡、浜松における防災建築街区等について」，日本建築学会大会〔東北〕学術講演会，東北大学川内北講義棟(C棟)C305室，宮城，2018.9.6.）

脇坂圭一，土屋和男，天内大樹，柳沢究「静岡県内の防火建築帯および防災建築街区における建築物に関する研究 その2 現存の状況と区画の変遷について」，日本建築学会東海支部2017年度研究集会，名古屋大学東山キャンパスES総合館035講義室，愛知，2018.2.20.

（関連：脇坂圭一・土屋和男・天内大樹・柳沢究「地方都市中心市街地の持続可能性に向けた防災建築街区等の更新に関する研究 その2 区画の変遷について」，日本建築学会大会〔東北〕学術講演会，東北大学川内北講義棟(C棟)C305室，宮城，2018.9.6.）

天内大樹，脇坂圭一，土屋和男，柳沢究「静岡県内の防火建築帯および防災建築街区における建築物に関する研究 その3 前現代都市の美学的評価」，日本建築学会東海支部2017年度研究集会，名古屋大学東山キャンパスES総合館035講義室，愛知，2018.2.20.

Tomoko Ohtani, Daiki Amanai and Kazushi Maruya, *The Effect of a Two-Dimensional Optical Illusion Pattern on the Three-Dimensional Interpretation of Objects Using Café Wall "Illusion Blocks"*, The 18th International Conference on Geometry and Graphics, Politecnico di Milan, Lombardy, Italy, 2018.8.4.

Daiki Amanai, Tomoko Ohtani, and Kazushi Maruya, *A Suggestion of the Optical Illusion Blocks for an Architectural Theory: Toward an Architecture in the Near Future*, The 18th International Conference on

Geometry and Graphics, Politecnico di Milan, Lombardy, Italy, 2018.8.6.

AMANAI, Daiki, *Les cinq points de l'architecture boisée asiatique*(in English), Concluding Remark of Green Initiative Week in Japan-Hamamatsu, Shizuoka University of Art and Culture, Japan, 2019.2.3.

天内大樹「デザイン史的視点とは何か——現代的意義を求める足場として」, 浜松市博物館特別展「浜松の染色の型紙——機械染色の型紙を中心として——」開催記念シンポジウム, 静岡文化芸術大学講堂, 浜松, 2019.2.9.

天内大樹「分離派建築会の「芸術」——領域の確保と霧消」, 連続シンポジウム「分離派建築会誕生100年を考える」第6回「分離派建築会の造形」, 西陣産業創造會館(旧京都中央電話局西陣分局), 京都, 2019.5.19.

AMANAI, Daiki, *Nationalism in Disasters: Architecture and Management in Modern Japan*, The 21st International Congress of Aesthetics, Faculty of Architecture, Belgrade, Serbia, 2019.7.23 [abstract: pp.658-659, proceedings: pp.1726-1734].

【翻訳】

柏木博監修, 橋本優子, 井上雅人, 天内大樹訳『図鑑デザイン全史』東京書籍, 2017 [DK, Design: The Definitive Visual History, London: Dorling Kindersley Limited, 2015].

ハル・フォスター, ロザリンド・E・クラウス, イヴーアラン・ボワ, ベンジャミン・H・D・ブークロー, デイヴィッド・ジョーブリット, 尾崎信一郎, 金井直, 小西信之, 近藤学編集, 天内大樹ほか訳『図鑑1900年以後の芸術』東京書籍, 2019 [Yve-Alain Bois, Benjamin H. D. Buchloh, Hal Foster, Rosalind E. Krauss, and David Joselitt, ART SINCE 1900: Modernism, Antimodernism, Postmodernism, 3rd Edition, London: Thames & Hudson, 2016], 担当ページ: 「1908」(97-101) 「1923」(209-213) 「1972c」(636-643) 「1984b」(698-701) 「2015」(836-841) .

【学術イベント】

静岡文化芸術大学天内ゼミ(デザイン学科 西尾かなで, 近藤涼香, 空間造形学科 藤澤薫平, 国際文化学科 石川美穂, 鎌田汐梨, 柴田真利, 天内大樹), 「ラトビア文化紹介パネル」, 静岡文化芸術大学2017前期公開講座「ラトビア文化ウィークス」, 静岡文化芸術大学西ギャラリー前, 浜松, 2017.6.9-23.

四方田雅史, 山本紗知, 天内大樹, 「超入門! ラトビア」, 静岡文化芸術大学2017前期公開講座「ラトビア文化ウィークス」, 静岡文化芸術大学176教室, 浜松, 2017.6.16.

堀口大樹, 溝口明子, 天内大樹, 「ラトビア、生活と文化」, 静岡文化芸術大学2017前期公開講座「ラトビア文化ウィークス」, 静岡文化芸術大学176教室, 浜松, 2017.6.17.

辻琢磨, 古橋啓稔, モデレーター: 天内大樹, 見学・座談「民間による地方都市のリノベーション」, JIA建築セミナー2017「都市と地方のポジティブな未来について」, 天竜ROKIグローバルイノベーションセンター, 都田ドロフリーズキャンパス, 曳馬365BASE, 田町KAGIYAビル, 浜松, 2017.8.26.

講師: 鈴木一郎太, 佐々木豊, 海道清信, モデレーター・オーガナイザー: 脇坂圭一, 天内大樹, 土屋和男, ふじのくに地域・大学コンソーシアム大学連携講座「静岡建築茶会2017」第1

回，鴨江アートセンター，浜松，2017.10.14.

河東義之，天内大樹，内田青蔵，橋爪節也，モデレーター：田所辰之助，分離派建築会100年研究会連続シンポジウム第3回「メディアと建築家——博覧会と商業主義のただ中で」，東京大学工学部1号館15号講義室，本郷，東京，2017.11.05.

講師：遠藤薫，佐野荘一，勝亦優佑，伊藤光造，今川俊一，モデレーター・オーガナイザー：脇坂圭一，天内大樹，土屋和男，ふじのくに地域・大学コンソーシアム大学連携講座「静岡建築茶会2017」第2回，富士市交流センター，富士，静岡，2017.12.9.

錯視ブロックワークショップグループ（大谷知子，天内大樹，ほか），キッズデザイン・ワークショップ「つくる、さがす、みつける 錯視の不思議」，ozone 6F パークサイドスクエア，新宿パークタワー，東京，2018.5.5.

主催：2018年度木質フォーラムにおける浜松国際会議実行委員会（三宅理一，天内大樹，ほか），「木質フォーラム浜松国際会議」，静岡文化芸術大学，浜松，2019.2.2-3.

Erwin Viray, Mao Harada, Alvin Titrowirjo, Satoru Yamashiro, moderator: Daiki Amanai, Panel Discussion of Opening Symposium, Green Initiative Week in Japan-Hamamatsu, Shizuoka University of Art and Culture, Hamamatsu, Japan, 2019.2.2.

パネリスト：田中修二，天内大樹，菊地潤，大宮司勝弘，モデレーター：田路貴浩，連続シンポジウム「分離派建築会誕生100年を考える」第6回「分離派建築会の造形」，西陣産業創造會館（旧京都中央電話局西陣分局），京都，2019.5.19.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Ohtani Tomoko, Amanai Daiki, Maruya Kazushi	4. 巻 -
2. 論文標題 The Effect of a Two-Dimensional Optical Illusion Pattern on the Three-Dimensional Interpretation of Objects Using Cafe` Wall " Illusion Blocks "	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 18th International Conference on Geometry and Graphics	6. 最初と最後の頁 1682 ~ 1693
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1007/978-3-319-95588-9_151	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Amanai Daiki, Ohtani Tomoko, Maruya Kazushi	4. 巻 -
2. 論文標題 A Suggestion of the Optical Illusion Blocks for an Architectural Theory: Toward an Architecture in the Near Future	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 18th International Conference on Geometry and Graphics	6. 最初と最後の頁 529 ~ 540
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1007/978-3-319-95588-9_43	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 天内大樹	4. 巻 -
2. 論文標題 機械捺染型紙にみる現代的意義 デザイン史的視点	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 浜松市博物館特別展図録『浜松の染色の型紙 機械染色の型紙を中心として 』	6. 最初と最後の頁 189-194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天内大樹	4. 巻 19
2. 論文標題 都市の展開と建築 リガ, ラトヴィア	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 静岡文化芸術大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 85-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 AMANA, Daiki
2. 発表標題 Nationalism in Disasters: Architecture and Management in Modern Japan
3. 学会等名 The 21st International Congress of Aesthetics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Daiki Amanai and Tomoko Ohtani
2. 発表標題 Theoretical Basis for the Optical Illusion Block from the Viewpoint of Architecture
3. 学会等名 11th Asian Forum on Graphic Science (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 天内大樹
2. 発表標題 デザイン史的視点とは何か 現代的意義を求める足場として
3. 学会等名 浜松市博物館特別展「浜松の染色の型紙 機械染色の型紙を中心として」開催記念シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 天内大樹
2. 発表標題 平和記念東京博覧会の「分離派式」
3. 学会等名 分離派建築会100年研究会連続シンポジウム第3回「メディアと建築家 博覧会と商業主義のただ中で」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 天内大樹
2. 発表標題 分離派建築会の「芸術」 領域の確保と霧消
3. 学会等名 連続シンポジウム「分離派建築会誕生100年を考える」第6回「分離派建築会の造形」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Ohtani, Daiki Amanai and Kazushi Maruya
2. 発表標題 The Effect of a Two-Dimensional Optical Illusion Pattern on the Three-Dimensional Interpretation of Objects Using Cafe Wall "Illusion Blocks",
3. 学会等名 The 18th International Conference on Geometry and Graphics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Daiki Amanai, Tomoko Ohtani, and Kazushi Maruya
2. 発表標題 A Suggestion of the Optical Illusion Blocks for an Architectural Theory: Toward an Architecture in the Near Future
3. 学会等名 The 18th International Conference on Geometry and Graphics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 土屋和男・脇坂圭一・天内大樹・柳沢究
2. 発表標題 地方都市中心市街地の持続可能性に向けた防災建築街区等の更新に関する研究 その1 清水、静岡、浜松における防災建築街区等について
3. 学会等名 日本建築学会大会 [東北] 学術講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 脇坂圭一・土屋和男・天内大樹・柳沢究
2. 発表標題 地方都市中心市街地の持続可能性に向けた防災建築街区等の更新に関する研究 その2 区画の変遷について
3. 学会等名 日本建築学会大会 [東北] 学術講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 AMANA1, Daiki
2. 発表標題 Les cinq points de l'architecture boisee asiatique: Concluding Remark of Green Initiative Week in Japan-Hamamatsu
3. 学会等名 Green Initiative Week in Japan-Hamamatsu
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 天内大樹
2. 発表標題 建築系雑誌の広告図像 技術の普及にあたって
3. 学会等名 大正イマジユリィ学会第9回国際シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 土屋和男, 脇坂圭一, 天内大樹, 柳沢究
2. 発表標題 静岡県内の防火建築帯および防災建築街区における建築物に関する研究 その1 意匠と道路の関係について
3. 学会等名 日本建築学会東海支部2017年度研究集会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 脇坂圭一, 土屋和男, 天内大樹, 柳沢究
2. 発表標題 静岡県内の防火建築帯および防災建築街区における建築物に関する研究 その2 現存の状況と区画の変遷について
3. 学会等名 日本建築学会東海支部2017年度研究集会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 天内大樹, 脇坂圭一, 土屋和男, 柳沢究
2. 発表標題 静岡県内の防火建築帯および防災建築街区における建築物に関する研究 その3 前現代都市の美学的評価
3. 学会等名 日本建築学会東海支部2017年度研究集会
4. 発表年 2017年～2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 近藤涼香, 西尾かなで, 藤原薫平, 天内大樹編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 静岡文化芸術大学天内研究室	5. 総ページ数 48
3. 書名 静岡文化芸術大学2017年度前期公開講座・企画展『ラトビア文化ウィークス』記録集	

1. 著者名 脇坂圭一, 天内大樹, 土屋一男, 稲垣純世編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 静岡建築茶会	5. 総ページ数 60
3. 書名 ふじのくに地域・大学コンソーシアム大学連携講座『静岡建築茶会』	

1 . 著者名 Daiki Amanai, Keita Aoshima, Kazuo Tsuchiya ed.	4 . 発行年 2020年
2 . 出版社 Riichi Miyake, Hiroshi Naito, Erwin Viray, Alvin Tjitrowirjo, Andry Widyowijatnoko, Masahiro Harada, Joseph Michael Espina	5 . 総ページ数 315
3 . 書名 Grow the Forest, Nurture the Wood Culture - Green Strategy, Timber Chain and Woodified Architecture in Southeast Asia and Japan: the Green Initiative Week in Japan-Hamamatsu	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Various A's http://www.ne.jp/asahi/d/ama/archive.html
--

6 . 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考